

ロシアナのロシアな話—スーパーマーケット編— ／いちのへ友里

モスクワに到着して3カ月。まだまだ街中が教科書で、出会う人すべてが先生です。中でも興味深い授業は、毎日のスーパーマーケットで繰り広げられます。



イラスト 岩井正幸

青果コーナーでは、突然バナナを房から2本、また別の房から3本もぎ取っている人がいます。卵コーナーでは、パックを次々と開け、気に入った卵を集めて詰め

替えている人がいます。ベーカリーコーナーでは焼きたてパンを手に取り、裏返してその焼き加減を見ている人もいます。

飲料コーナーでは、お買い得商品のジュースに「1本30ルーブル、2本で70ルーブル」と書いてあります。「大変、計算が間違ってる！」。けれども近づいてきた店員は「いらっしやいませ」と挨拶(あいさつ)するだけで、気にせず素通りしていきます。

精肉コーナーでは、「この鶏肉、ちょっと色が悪いんじゃないか」と指摘する人に、なんと店員が堂々と「そうですね」と答えています。「大変、謝らなくていいの？」ところが2人は向かい合って「はあー」とため息をつく、「夏は暑いから仕方がないね」「そうですね」となぜか意気投合しています。

冷凍食品コーナーでは、こぼれて半分しかないアイスクリームを発見。「大変、これは不良品！」。ところが駆けつけた店員は「こっちを買った方がいいですよ」と事も無げにアドバイスしてくれます。

レジでは、パンとビールを一つずつ見せ、「それぞれ八つずつ買うつもりなんだ」と自己申告している人が。驚くことに店員は調べもせずに「そう」とレジに打ち込むと支払いは終了です。

労働者が偉いソ連時代の名残でしょうか、ロシアではお客さまは神様…ではありません！ ロシアの生活を切り取って並べたようなスーパーマーケットでは、野菜や肉の名前からロシア語を学べるだけでなく、店員と客との会話からロシア人についても学べるようです。

(モスクワ在住、ロシア国営放送「ロシアの声」アナウンサー)